

---

# あたしは今。

嶺羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あたしは今。

### 【Nコード】

N2070H

### 【作者名】

嶺羅

### 【あらすじ】

あたしは今、涙が止まらない。その涙は、悲しみの涙であり、あ  
る人の幸せを願った、涙でした。中一の幼い主人公のせつな  
い恋。

あたしは今、涙が止まらない。

その涙は、悲しみの涙であり、  
解放の涙であり、  
ある人の幸せを願った、涙でした

風が吹きやんだ午後、あたしはある男の子と仲良くなった。

その男の子はあたしにとって、初めて本当の恋をした相手だった。

だからなおさら、諦めなんて簡単にはつかないし、  
何より、彼を思う気持ちが大きすぎて、苦しいくらいだった。

彼が笑う。

その度にあたしの心は締め付けられた。

嫉妬って言うのかな。

小学校5年生の時、「涼香ちゃんと勇氣くんは両思い！」なんて言  
ってたっけ。

あれはただ、あたしが流した噂に過ぎなかつただけ。

今その涼香ちゃんと勇氣くんの仲に嫉妬しているなんてね。

そんな自分が嫌になる。

あんな噂、たてなければ良かった。

彼と、仲良くなんかならなければ良かった。

彼を——彼を、好きになんかならなければ良かった……。

でも、彼を好きにならなければ、今のあたしはなかったと思う。

——そう、前向きに思っても、やっぱり思考がこんがらがってしまっただけ、なんの利益にもならなかった。

——やっぱり、成長したんだね。

君を思う度に胸が締め付けられるのも、

君が他の女の子と話すところを見て嫉妬するところも、

全部君がいなかったら無かったこと。

あたしがまた一つ、一歩大人に近づきかけをくれた。

——利益は、あったよ。

それはあなた自信が一番よく分かってることなんじゃないの？

夢の中のあたしが言う。

分かってたよ。

それはもう、痛いくらいだ。

最近、本当に涼香ちゃんと勇氣くんが両思いのような気がしてきた。

涼香ちゃんには別に好きな人がいるらしい。

だけど勇氣くんが涼香ちゃんが好きでは無いという確信はなかった。

あたしの心は、こんなにも弱く、

こんなにももろく、

こんなにも儂いものだったっけ？

ただ強がっていただけだったのかもしれない。

あたしには、耐えられなかった。

彼がする行動一つ一つで、

いちいち心が締め付けられて、

いちいち悩んだりするのが。

もう、疲れたよ……。



君が笑う度に、あたしの笑顔は消えていったんだよ。

君と目が合う度、あたしの小さな心は強く鼓動を打って、そして深く苦しんだんだよ。

そんなこと、君は夢にも思っていないんでしょう？

でもこれは、君のせいなんかじゃない。

すべてはあたしが、君に恋をしたから。

夕暮れが近い頃、この恋にピリオドをうつと決めた。

最後の最後に何か大きな事でもしでかしてやろうかと思ったけど、やめにした。

放課後の部活が始まって、教室、いや、もう校舎の中には、生徒の姿は見あたらなかった。

幸いな事に、文化系の部はよそに出て練習をしていたため、少なくとも一階の教室には人の姿は見られない。

ついさっき、席替えをしたばかりだった。

結果は見なくても分かった。

あたしはついてる方かついてない方かだったら、ついてない人間だから。

結果は当然、勇気くんと席がかなりと言ってもいい位離れたわけで。

そしてなぜか涼香ちゃんと勇氣くんの席はかなり近かったりして。

そこからしてもう気分はマイナス思考まっしぐらなわけで。

誰もいない教室には、夕暮れが間近に迫った夕日が差し込めていた。

そんな教室を見ていると、勇氣くんの思い出が次々とよみがえってきた。

今思うと、彼と過ごしたこの7年間は、決して無駄では無かったと思う。

あたしが君に恋をしていた年月は、過ごした年月にはほど遠いけど、それでもあたしは、自分なりのいい恋をしたと思っている。

君と笑い合った日々をかみしめて、君の席に向かって終わりの言葉

をかけた。

「バイバイ……。」

と…。

苦しかった。

あんなに悩んだのは初めてだった。

だけどそれは、たくさん悩んで、たくさん苦しんだ分、  
とてもいい恋をしたという”証”だから。

前を向いて歩きだそう。

もう後ろは振り返らない。

前へ、前へ進もう。

あたしは今、涙が止まらない。

その涙は、悲しみの涙であり、  
解放の涙であり、  
ある人の幸せを願った涙でした

だけどその涙は、  
どれもきつと、後悔の涙ではない。

心が晴れた。

こんなにもスッキリ諦めがつくとは思っていなかった。

でもきつと心の中のどこかには、まだ未練があるかもしれない。

もし、未練が残っていたとしてもそれは、

無理に取りだそうとはしなくてもいいと思う。

恋をする事に罪など無い。

自分らしく生きて、失恋から立ち直って、未練もすっかりなくなつたその時、あたしはきつと成長していると思う。

あたしは今、涙が止まらない。

だげどその涙はきつと、悲しみの涙でも、喜びの涙でもない、

きつとそれは、一つの光。

恋の涙。

(後書き)

今日学校であったことをネタにいれ、覚えているうちに執筆しました(笑)

と言うかこれ、小説と詩の中間地点辺りにある作品かも?…;

みなさんはこのような恋、したことはありますか?

感想など下さると嬉しいです>><



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2070h/>

---

あたしは今。

2010年12月30日02時17分発行